

令和5年度岐阜県外国人患者受入体制整備協議会

－ 議 事 概 要 －

1 日 時 令和6年2月22日（木）～令和6年3月8日（金）

2 開催方法 書面開催

3 出席者

区分	所属	役職	氏名
医療関係	岐阜県医師会	常務理事	三輪 佳行
	岐阜県歯科医師会	常務理事	西垣 公順
	岐阜県病院協会	専務理事・事務局長	澤井 和子
	岐阜県薬剤師会	副会長	棚瀬 友啓
	岐阜県看護協会	専務理事	細井 智子
JMIP 認証病院	中部国際医療センター	地域連携部	山田 亜光
医療機関	高山赤十字病院	事務部長	大西 一彦
救急関係	岐阜市消防本部	救急課長	根尾 惣麿
関係機関	岐阜県国際交流センター	業務推進課長	中山 将
	医療通訳ボランティア		加藤エジナユキコ
行政	岐阜市国際課	課長	川合 裕子
	大垣市まちづくり推進課	課長	宮内 幸三
	可児市地域協働課	課長	田島 純平

4 議事等

1 外国人患者受入体制整備にかかる県及び国の取組みについて

(1) 県及び国の主な取組みについて

(2) 「令和4年度県内医療機関における外国人患者の受入に係る実態調査」結果の概要

2 外国人患者受入れにかかる現状及び課題について（意見照会）

5 配布資料

資料1 岐阜県外国人患者受入体制整備協議会 設置要綱

資料2 県及び国の主な取組みについて

別紙1-1 外国人患者を受け入れる拠点的な医療機関

別紙1-2 医療機関リスト

資料3 県内在留外国人数

資料4 「令和年度県内医療機関における外国人患者の受入に係る実態調査」結果（岐阜県）の概要

（参考資料1）令和4年度医療機関における外国人患者の受入に係る実態調査について（概要版）（厚労省）

- (参考資料2) 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけ変更を踏まえた外国人患者の受け入れに関する体制の整備について (厚労省令和5年4月28日発出)
- (参考資料3) 訪日外国人受診者の医療費不払いに対する予防策について (周知・協力依頼) (厚労省令和4年10月7日発出)
- (参考資料4) 訪日外国人受診者医療費未払情報の報告マニュアル Ver. 1.04 (医療機関向け) (厚労省)
- (参考資料5) 岐阜県在住外国人相談センター (岐阜県国際交流センター)
- (参考資料6) 岐阜県医療通訳ボランティア斡旋事業 (岐阜県国際交流センター)

6. 協議会内容

- (1) 協議又は共有すべき事項
意見なし

- (2) その他のご意見

ご意見1

- ・ 県の医療通訳ボランティアへの登録について、現状の言語以外への拡充は必要ないか。

県の回答1

- ・ 国際交流センターセンターでは4言語 (中国語、ポルトガル語、タガログ語、ベトナム語) の医療通訳ボランティアの運用を行っており、年間100件程度の依頼があるが、約9割がポルトガル語の依頼である。なお、4言語以外の医療通訳の必要性については、現状、把握していない。

ご意見2

- ・ 外国人患者受入について様々な事象があり一律には対応方法を絞ることはできないが、医療機関の立場で相談できる窓口が欲しい。
- ・ 訪日外国人患者が治療中に亡くなった際、国や宗教等により遺体の取扱いが異なるため対応に苦慮した。医療機関のためのあらゆる場合を想定した連絡先、相談先及び対応方法などをまとめてほしい。
- ・ 救急外来を受診する外国人患者が、受診前に支払い能力がないことをはっきり言われるケースが増えている。このような状況では医療機関としてどう対応すべきか。

県の回答2

- ・ 上記のような外国人患者への対応にかかる困りごとについては、厚生労働省において医療機関における外国人対応に資する「夜間・休日ワンストップ窓口」を設置しています。医療機関から直接お電話にてご相談いただけます。

夜間・休日ワンストップ窓口 <https://www.onestop.emergency.co.jp/>

利用時間：平日17時から翌9時まで、土日祝日、年末年始は24時間

電話番号：03-6371-0057 (コールセンター)

※R5年度における事業内容です。R6年度事業については変更される可能性があります。

(3) 現状と課題、要望等

(現状と課題)

- ・ 海外旅行保険未加入の訪日外国人旅行者が多い。旅行代理店などを通して海外旅行保険の加入を促す活動が必要。
- ・ 健康保険証の期限が切れた状態で受診され、催促しても支払いされず連絡がつかなくなってしまふことがある。
- ・ 日本語で書かれた書類への記入に際して電話通訳（三者間通訳）を利用したが、上手く伝わらず非常に時間がかかった。
- ・ 患者が本当のことを言っていないかもしれないと思う時がある。しかし、通訳は患者の言葉を伝えるだけなので、どう対処すべきか悩むことがある
- ・ 精神科の患者が増えている。薬を多く欲しがる患者や、患者の中には薬が合わなくても正直に伝えず、ちゃんと薬を飲んでいないと思われる方もいる。
- ・ (患者母国との文化等の違いから)子どもに対して過保護にみられたり、出産に際して患者が戸惑ったりということがある。

(要望等)

- ・ 救急医療費損失補てん事業の充実が必要。
- ・ 医療通訳者人材不足のため、人材育成の充実が必要。
- ・ 外国人患者向け日本の医療制度説明会の実施が必要。